

新基地建設反対名護共同センターニュース

受注従業員が感染 辺野古工事が中断

沖縄防衛局は16日、辺野古新基地建設現場の受注業者に勤務する60代の男性従業員（名護市）1人が新型コロナウイルスに感染した、全ての工事を中断すると発表しました。同防衛局は18日以降も移設作業をしないとし、再開の時期は明確にいません。

デニー知事 官房長官に工事中止を要請

玉城デニー知事は17日、新基地建設工事の受注業者の従業員がコロナ感染したことを受け、菅官房庁長官に電話で工事の中止を要請しました。当面の県議選で与党を勝利させ、デニー知事を支えることが重要になっています。キャンプシュワブゲート前では17日、機動隊員の姿はなく警備員も数名にとどまり、工事車両の基地内への搬入はありませんでした。大浦湾では18日、10数隻の台船が待機していました。



17日午前9時頃のゲート前の様子



18日午前9時頃の大浦湾の様子（瀬嵩燈台跡から）

コロナ感染が収束するまで工事は中止せよ
県議選で与党を勝利させ知事を支えよう！

オール沖縄会議「座り込み」一時中断を決定

「オール沖縄会議」は4月14日、幹事会を開き「辺野古新基地建設へのゲート前での抗議行動についての『基本方針』を決定しました。

ゲート前、海上行動、安和
桟橋、塩川港での抗議行動
を5月6日まで中止し、監
視活動に切り替えます。

【基本方針】

オール沖縄会議は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底する観点から、辺野古ゲート前での座り込み、大浦湾での海上行動、名護市安和桟橋や本部町塩川港での抗議行動も含めて5月6日まで中止する。組織動員は行わない。構成組織、各地域島ぐるみ会議へもこの方針を通知する。

なお、辺野古ゲート前は、曜日ごとに各組織が現場を担当してきたことを踏まえ、担当曜日組織の責任者による監視行動に切り替えて活動を継続する。名護市安和桟橋や本部町塩川港においても責任者による監視行動に切り替えて活動を継続する。

〔注〕監視行動は作業車の出入りをチェックするのみで、ゲート前ではシュプレヒコールなど一切の抗議行動はしない。なお、個人でゲート前などに来られる方についても、中止の趣旨を伝えて帰っていただくことです。

「ジュゴンの鳴音確認」県が防衛局に工事中止を指導



鳴音の確認位置

環境監視等委員会は12日、大浦湾の工事施工区域内で2月の工事が休みだった11、23、24日の3日間、12回にわたってジュゴンと思われる鳴音が確認されたことを発表しました。防衛局は「海洋生物の専門家に確認したところ、聴覚による判断だけではなく周波数や持続時間からみても、ジュゴンの鳴音の可能性が高いとの意見を得た」と報告しています。すでに沖縄島北部では姿を消したのではないかと言われていたジュゴンが大浦湾に戻ってきた可能性が高いという嬉しいニュースです。

環境監視委員会が追跡調査の必要性を指摘

環境監視等委員会からは「調査の頻度を増やす」「大浦湾北部の水深が深いところでも食み跡調査を行う」など検討するようとの指摘があったということです。この件で沖縄県は17日、沖縄防衛局にジュゴンの保護のため工事の中止を求める行政指導文書を送りました。